

現場を歩きながら

地域環境の未来を考える

小池 聡 教授

Prof. Koike Satoshi

地域環境の保全

3年後期配当科目／専門部門(開発・環境科目群)

地域の変貌を探索し、環境保全について考える

—「地域環境の保全」の講義内容について教えてください。

郊外と農山村、中心市街地といった異なる歴史や環境条件をもつ地域ごとに、それぞれの土地で過去にどんな暮らしが営まれてきたかをリサーチし、そのうえで「今、その地域に求められていることは何か」を、現場に即して検討します。

まず、座学で地域計画の基本として土地利用計画制度について概観し、地域の課題に対してどんな制度的対応が図られてきたかを学びます。そのほか、里山環境を教育に活かした「森のようちえん」等の事例もいくつか紹介していきます。そして全15回のうち3回はフィールドワークを実施し、名古屋市内や岐阜県可児市での里山実習に出かけます。自分の足で歩くことを通して地域空間の変貌を探索し、過去、現在、そして未来の環境保全へと考えを繋げるための観察力と洞察力を身につけます。

地域の過去と今を知り、未来を考える視点を

—フィールドワークでは、どのようなことを学びますか。

今の日本の都市部は、過去の地形が大幅に改変された地域がほとんどですが、幸いなことに名古屋市には、昔の地形や自然を活かしてつくられた地域が比較的多く残っています。たとえ

ば八事や覚王山などの地域は、起伏に富んだ地形からも過去のまちの姿を見つけ出すことのできる貴重なフィールドです。可児市の里山実習では、かつての城下町として形成された元久々利集落へも出かけます。一般的な農業集落とは少し異なる雰囲気集落を歩きながら、里山・里地の空間概念を体感し、地域環境の整備・保全課題を見つけ出します。昔どんな土地だったのかを時代を遡って考えることで、目の前の地域への問題意識を持つことを目的に、座学やフィールドワークを行っています。

この講義では、専門知識を覚えることよりも「現地を歩いた」実感から、環境保全の必要性とそのあるべき姿を肌で感じてほしいと思っています。

—学生たちには、どんな大学生活を送ってほしいですか。

学生のうちに、たくさん挑戦して、たくさん失敗しましょう。失敗は恥ずかしいことはありません。得意なことをより深めるのも大切ですが、「できないこと」にも目を向けて挑戦することで、きっと自分の世界がもっと広がると思います。チャレンジを重ねていくことで、自分の限界に直面するかもしれませんが、結果ではなくその挑戦した事実こそが、未来の自分につながる大切な経験と自信になると思います。



地域に学ぶ、学生が変わる

—大学と市民でつくる持続可能な社会—
地域と連携する大学教育研究会 編(東京学芸大学出版会)

東京学芸大学と、近隣の市民で考える持続可能な社会について、その活動について記した一冊です。この講義で行っているフィールドワークと似た活動の様子が、東京の郊外を舞台に綴られています。地域との関わりを持ちたい人、環境保全に興味がある人はぜひ読んでみてください。



学生の声 /

フィールドワークで現地を歩くことで、興味や愛着が湧くのはもちろん、より理解が深まり、まちを見る目が変わりました。先生は講義やゼミなどで、難しいことも噛み砕いてわかりやすく教えてください。Web検索で知った気になるのではなく、実際にその場所に足を運んで目で見ることの大切さを教えていただきました。

山田 力也さん(4年生)

